

鍛冶

片井 操さん

(亀岡市)

赤く熱した鉄の棒をたく片井さん。1本の鍛を3〜4分で仕上げる(亀岡市京町)



900〜1000度と工所の3代目。工場内での道具を、農家の依頼に
いう高温に熱せられた鉄 鉄を熱し、手作業でたた 応じて作り、修理する。
の棒を、使い込まれた金 今ではほとんど見ら 農道具の仕事は田植え前
づちで小気味よくたた れなくなつた「村の鍛冶の4月ごろに殺到した
く。カンカンカン」と鉄 屋さん」だ。現在、保津が、年間通して依頼があ
を打ち込む音が4〜5回 川の筏流し復活を目指す ったのが「鍛」だった。
続くと、作業台をたく NPO法人「プロジェクト 8畳ほどの工場の中央
違つたトーン金属音 ト保津川」の依頼で、筏に火をおこす場所があ
が、合の手のように入 の木をつなぎ留める「鍛」る。「昔はマツで作つた
る。「体に染み込んだり 300本の製作に取り組 炭を使つていた」とい
ズム。無意識にたたいて む。
るんですわ」

刀や鉄砲鍛冶と異な り、片井さんの仕事は野
亀岡市の中心部、住宅 が連なる京町に片井操さん 鍛冶」と呼ばれる。農作
業(78)の工場はある。 業や山仕事に不可欠だっ
祖父の代から続く片井鉄 たくわやかま、おのなど

丹波でつくる

もの・わざ・ひと

体に染み込んだ槌音奏で

が、入手しにくくなつた で鉄棒の角度を変えなが
今はコークスを燃料に使 ら、右手の金づちの力加
う。燃料の下から新鮮な 減だけでカーブを描く。
空気が送り込まれ、強い 鍛の両端はとがっている
火力が維持される。火元 が、これも金づちだけで
にくべた鉄の棒は数分で 鋭さを出す。削れば早い
真つ赤に。ここから、片 ように思うが「たたくこ
井さんのリズム感ある槌 井さんのリズム感ある槌
音が響く。

U字形の鍛を作るに 10代ころは野鍛冶だ
は、直線の鉄棒を大きく けで仕事がり立つた
曲げる必要がある。「固 が、農作業の機械化が進
い鉄は均等に曲がつてく み、35歳のころからは鉄
れない。そこが腕の見せ 骨建物の建築が主力にな
所」。左手に持つ火ばし った。だが、今も春先に
は「片井さん
の道具でない
と」と修理依
頼に来るファ
ンがいる。筏
の衰退で、鍛
の製作も美に
60年ぶりだ
が、「手順は
体が覚えてい
た。昔よりは
下手になった
けどね」と笑
う。



筏を組む時に使われる鍛。U字形への
加工や先端の鋭利さは金づちだけで作
り出される

(西川邦臣)